



韓国からも参加、4コースで汗

のんびり味わう遥かなまち

第10回日本海未来ウォーク1日目の5日、日本全国はもとより韓国からも多くのウォーカーが集まった。照りつける初夏の日差しの下、県中部の各地をめぐる4コースで汗を浮かべながら楽しく歩いた。

倉吉市駄経寺町の倉吉未来中心を発着点とする倉吉レトロコース(5km)の出発式では、藤井喜臣副知事が「鳥取県ではウォーキング立県に取り組んでおり、各市町村でも大会などに取り組んでいく。健康のためにウォーキングでいい汗を流しましょう」とあいさつ。同コースの参加者



らと一緒に歩き、白壁土蔵群などをめぐった。

このほかにも、遥かなまち倉吉コース(10km)とコナン・小泉ハ雲コース(22km)、八犬伝・国鉄コース(41km)にも多くのウォーカーが参加。同コースは、旧国鉄倉吉線廃線跡が見どころの一つ。ウォーカーはヘルメッ

古い町並みが残る白壁土蔵群を歩く参加者ら。5日、倉吉市新町1丁目

人がチェックポイントなどの作業にあたったほか、参加者へ声援を送った。

10kmのコースに参加した福島県福島市の佐久山守さん(68)は「暑かったが天気も良く、古い町並みを楽しむことができた。素晴らしい鳥取とウォーキングを楽しむことができた」と、満足げだった。

また、大会運営には学生ボランティアも協力した」と、満足げだった。

力し、5日は約120

世界初 絆深め240キロ踏破

日韓ピースウォーク キング一行倉吉に



○前日に境港市かたあさいつ、両国のウラ大山町まで歩いた「日韓ピースウォーク」の一行は、大山町を出発、琴浦町でコナン・小泉ハ雲コースのウォーカーと合流。世界初の韓国から日本までの240kmを踏破、倉吉市にゴールした。

会場に到着すると、倉吉西音楽部による演奏とふれあい広場の噴水が一齐に吹き出し、ウォーカーを歓迎した。

ゴールイベントでは韓国の大韓ウォーキング連盟の李康玉理事長が「韓国と日本人が激励しながら共に歩き切ったのは素晴らしい」

疲れを癒やす 三朝温泉の霧

巨大みすと「登場」

○各コースのスタートやゴールとなる倉吉市駄経寺町の倉吉パークスクエアには、イベントステージやさまざまな団体の物販コー



初めてのお披露目となった巨大三朝みすと。5日、倉吉市の倉吉パークスクエアふれあい広場

し、注目を集めた。外観は三朝みすとを忠実に再現したまま、2倍を超えるサイズに拡大。同協議会がPRのために作成し、初めのお披露目となった。

韓国原州市医師会と県中部医師会 両国の医療発展へ初交流

交流を喜ぶ池田会長(右)と趙会長。4日、倉吉市山根の倉吉シティホテル



○鳥取県中部医師会(池田宣之会長)と韓国原州市医師会(趙展環会長)の親善交流会が4日夜、倉吉市山根の倉吉シティホテルで開かれた。日本海未来ウォークの10周年を記念して開かれる日韓参加者が両国を歩きたいで歩く「日韓ピースウォーク」を機に、初めて両医師会同士が正式な交流会を持った。

昨年、松田隆典中部医師会副会長が韓国を訪れ、来日呼び掛けしていた。交流会で趙会長は「今日の交流が、両国の医療の発展の種になってほしい」と期待を込め、原州市や医師会の様子などを紹介した。池田会長は「原州市の健康都市づくりに参考にしながら、中部の住民の健康づくりにつなげたい」と話していた。

韓国原州市医師会のメンバーは、5日に10kmを歩いた。